



2023年10月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年6月13日

上場会社名 株式会社 オービス

上場取引所 東

コード番号 7827 URL <https://www.orvis.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中浜 勇治

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 井上 清輝

TEL 084-934-2621

四半期報告書提出予定日 2023年6月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年10月期第2四半期の業績(2022年11月1日～2023年4月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年10月期第2四半期	6,265	10.9	362	0.0	375	4.7	487	81.2
2022年10月期第2四半期	5,649	26.0	362	364.3	393	276.0	269	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年10月期第2四半期	277.90	
2022年10月期第2四半期	154.05	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年10月期第2四半期	13,341	4,758	35.7	2,704.26
2022年10月期	12,996	4,322	33.3	2,466.63

(参考)自己資本 2023年10月期第2四半期 4,758百万円 2022年10月期 4,322百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年10月期		0.00		40.00	40.00
2023年10月期		0.00			
2023年10月期(予想)				50.00	50.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年10月期の業績予想(2022年11月1日～2023年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,999	5.8	513	33.4	507	35.9	574	6.1	327.06

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年10月期2Q	1,760,787 株	2022年10月期	1,753,818 株
期末自己株式数	2023年10月期2Q	1,262 株	2022年10月期	1,262 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年10月期2Q	1,754,558 株	2022年10月期2Q	1,746,585 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき算定した見通しであり、今後の経済情勢の変化及び様々な要因によって、実際の業績は予想値と異なる場合があります。業績予想の前提となる仮定等につきましては、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
（1）経営成績に関する説明	2
（2）財政状態に関する説明	3
（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
（1）四半期貸借対照表	4
（2）四半期損益計算書	6
（3）四半期キャッシュ・フロー計算書	7
（4）四半期財務諸表に関する注記事項	8
（継続企業の前提に関する注記）	8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）	8
（セグメント情報等）	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間（2022年11月1日～2023年4月30日）のわが国経済は、政府が新型コロナウイルス感染症に関する行動制限を解除して以降、ウィズコロナの下で、徐々に経済活動が正常化に向かい景気は緩やかに持ち直しの兆しが見えてまいりました。一方、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化による原材料・エネルギー価格の高騰に加え、世界的なインフレの進行抑制に対する欧米諸国での政策金利の引き上げなど、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような環境のもと、当社は当期より五ヵ年の中期経営計画「NEXT STEP 10」を公表し、最重点施策である「ハウス・エコ事業における鉄骨製作工場認定制度に基づくMグレード認定工場の取得」を念頭に、木材事業福山工場の生産効率改善のための設備投資に着手するなど、中期経営計画の達成に向けた新たなスタートを切りました。

その結果、売上高は62億65百万円（前年同四半期比110.9%）、営業利益は3億62百万円（前年同四半期比100.0%）、経常利益は3億75百万円（前年同四半期比95.3%）、四半期純利益は特別利益として賃貸用不動産等の売却に係る固定資産売却益2億76百万円の計上により4億87百万円（前年同四半期比181.2%）となりました。

これにより、純資産は前事業年度末の43億22百万円から47億58百万円となり、自己資本比率は33.3%から35.7%となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。営業損益につきましては、全社費用等配分前で記載しております。

(木材事業)

ウッドショックによる世界的な木材供給不足は終息を迎え、その反動から国内市場は荷動きの低下によって在庫が増加し、一部において在庫調整の動きが見られるなど、業界全体が活況を呈していた前事業年度から一転して厳しい状況に陥りました。

原材料につきましては、国産スギ丸太の仕入原価は引き続き安定的に推移いたしました。一方、ニュージーランド産丸太の仕入原価は、為替相場の急激な円安により期首時点では最高値圏にありました。しかしながら、最大消費国である中国において、ゼロコロナ政策によるロックダウンが複数の都市で行われ、経済活動に大きな影響を与えたことにより木材需要が鈍化し、船舶運賃の値下がりとも相まって下落基調に転じるなど、乱高下いたしました。

このような環境のもと、引き続きハイブリッド工場の強みを最大限に生かすため、供給量・価格面の双方で安定感のある国産スギの生産比率を約7割まで引き上げを行い工場稼働率の維持に努めてまいりました。また、チリ産製材品の安価販売の影響を最小限に抑えるべく新規・休眠顧客の掘り起こしや新たな販路の開拓によって受注量の確保に努めるなど、取引先との関係強化に積極的に取り組み、攻守のバランスを意識した慎重かつ迅速な事業運営を行うことで、梱包用材等マーケットの落ち込みが大きい中でも健闘し、収益を押し上げました。

その結果、売上高は39億54百万円（前年同四半期比99.7%）、営業利益は3億11百万円（前年同四半期比109.6%）となりました。

(ハウス・エコ事業)

建設業界におきましては、公共投資は底堅く推移し、民間の建設投資につきましても徐々に持ち直しの動きが見られるものの、慢性的な人手不足や資材価格の高騰に伴う建設コストの上昇等により、依然として厳しい事業環境で推移いたしました。

このような環境のもと、受注の確保を最優先課題として掲げ、既存顧客との関係を強化し、提案力・品質等も含めた総合的な競争力の向上に取り組んでまいりました。しかしながら、一部の案件においては鋼材などの資材価格の高騰が建設コストの増加を招き、採算面を押し下げる結果となりました。

その結果、売上高は18億83百万円（前年同四半期比150.7%）、営業利益は66百万円（前年同四半期比97.8%）となりました。

（太陽光発電売電事業）

現在、3県17ヶ所、総発電容量は約13MWの太陽光発電所を運営しております。当社の発電所において、自社の技術者が発電所運営管理業務を担当し、安定稼働と出力の維持に努めてまいりました。また、太陽光発電設備の経年に伴う償却負担が減少いたしました。

その結果、売上高は2億円（前年同四半期比97.4%）、営業利益は1億15百万円（前年同四半期比104.2%）となりました。

（ライフクリエイイト事業）

ゴルフ場部門におきましては、2023年1月には積雪によるクローズの影響があったものの、単月ベースでの開場以来最高の来場者数を記録する月次もあるなど、引き続き好調に推移いたしました。また、レストランにおいて配膳ロボットの導入により人手不足の解消に努めるとともに、経年劣化による周辺設備の修繕を計画的に実施するなど、引き続きコース管理の徹底による品質維持・サービスの向上を図り、ゴルファーの快適なプレー環境のサポートに努めてまいりました。

フィットネス部門におきましては、SNSでの告知強化に加え、朝6時からの早朝営業の開始や様々な限定イベントを実施するなど、新規会員の獲得に努めてまいりました。しかしながら、会員数はコロナ禍前の水準には回復せず、未だ厳しい状況が続いております。

その結果、売上高は1億95百万円（前年同四半期比104.4%）、営業利益は0百万円（前年同四半期比9.6%）となりました。

（不動産事業）

賃貸マンションの定期的な保守メンテナンスを引き続き行うことで、入居率及び定着率の向上を図ってまいりました。

なお、所有する賃貸マンション4棟のうち、2022年12月と2023年4月にそれぞれ1棟ずつ合計2棟を売却いたしました。

その結果、売上高は33百万円（前年同四半期比76.4%）、営業利益は22百万円（前年同四半期比82.1%）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第2四半期会計期間末の総資産につきましては、前事業年度末と比較して3億44百万円増加し133億41百万円となりました。その主な要因は電子記録債権が1億68百万円、リース未収入金が5億16百万円それぞれ増加し、受取手形及び売掛金が1億24百万円、機械装置及び運搬具が2億3百万円それぞれ減少したことによるものであります。

（負債）

当第2四半期会計期間末の負債につきましては、前事業年度末と比較して90百万円減少し85億82百万円となりました。その主な要因は支払手形及び買掛金が1億27百万円、1年内返済予定の長期借入金が1億32百万円それぞれ増加し、短期借入金が2億50百万円、長期借入金が1億22百万円それぞれ減少したことによるものであります。

（純資産）

当第2四半期会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末と比較して4億35百万円増加し47億58百万円となりました。その主な要因は利益剰余金が4億17百万円増加したことによるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期累計期間における業績は、2023年3月14日の「2023年10月期第2四半期（累計）業績予想及び2023年10月期通期業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期業績予想（営業利益、経常利益及び当期純利益）のそれぞれ70.6%、73.9%及び84.9%の進捗率となっておりますが、業界全体が低迷している木材事業の受注動向の推移や為替（米ドル）の急激な変動に加え、ハウス・エコ事業の資材価格の高騰に伴う販売価格への転嫁の可否等、不透明な要因が多数あることを考慮し、現時点において通期業績予想を据え置いております。

今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年10月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	797,070	784,698
受取手形及び売掛金	1,772,152	1,647,666
電子記録債権	233,363	401,686
完成工事未収入金及び契約資産	157,989	184,742
リース未収入金	1,869,110	2,385,713
商品及び製品	136,597	149,334
仕掛品	84,646	40,715
未成工事支出金	92,581	106,028
原材料及び貯蔵品	487,093	575,969
その他	297,239	331,611
貸倒引当金	△1,947	△2,010
流動資産合計	5,925,899	6,606,156
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,382,921	1,291,404
機械装置及び運搬具(純額)	2,175,554	1,972,134
土地	3,061,501	2,982,797
建設仮勘定	—	11,000
その他(純額)	278,647	252,045
有形固定資産合計	6,898,624	6,509,382
無形固定資産	17,315	14,373
投資その他の資産		
投資有価証券	91,707	107,800
その他	66,783	106,880
貸倒引当金	△4,006	△3,572
投資その他の資産合計	154,483	211,108
固定資産合計	7,070,423	6,734,864
資産合計	12,996,323	13,341,020

(単位:千円)

	前事業年度 (2022年10月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	829,820	956,962
工事未払金	226,597	322,085
短期借入金	550,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	1,125,926	1,258,254
未払法人税等	234,903	225,126
賞与引当金	86,475	99,653
完成工事補償引当金	44	31
その他	784,943	741,304
流動負債合計	3,838,710	3,903,419
固定負債		
長期借入金	4,450,060	4,327,188
退職給付引当金	134,284	130,082
資産除去債務	8,025	8,056
その他	242,336	214,053
固定負債合計	4,834,705	4,679,381
負債合計	8,673,415	8,582,800
純資産の部		
株主資本		
資本金	695,594	699,615
資本剰余金	523,594	527,615
利益剰余金	3,084,753	3,502,250
自己株式	△1,182	△1,182
株主資本合計	4,302,760	4,728,299
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	20,305	29,798
繰延ヘッジ損益	△158	121
評価・換算差額等合計	20,146	29,920
純資産合計	4,322,907	4,758,220
負債純資産合計	12,996,323	13,341,020

(2) 四半期損益計算書
第2四半期累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自2021年11月1日 至2022年4月30日)	当第2四半期累計期間 (自2022年11月1日 至2023年4月30日)
売上高	5,649,756	6,265,960
売上原価	4,632,471	5,186,435
売上総利益	1,017,285	1,079,524
販売費及び一般管理費	654,864	717,119
営業利益	362,420	362,405
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	1,244	1,816
仕入割引	1,465	624
受取賃貸料	2,400	2,400
補助金収入	38,857	23,417
その他	20,927	4,027
営業外収益合計	64,897	32,287
営業外費用		
支払利息	22,844	18,875
その他	10,931	694
営業外費用合計	33,775	19,570
経常利益	393,541	375,123
特別利益		
固定資産売却益	—	276,746
特別利益合計	—	276,746
特別損失		
減損損失	—	72
特別損失合計	—	72
税引前四半期純利益	393,541	651,796
法人税、住民税及び事業税	109,451	209,471
法人税等調整額	15,026	△45,273
法人税等合計	124,477	164,197
四半期純利益	269,064	487,599

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	393,541	651,796
減価償却費	339,096	322,431
減損損失	—	72
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,211	△370
賞与引当金の増減額 (△は減少)	20,093	13,178
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	△77	△13
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	3,545	△4,202
受取利息及び受取配当金	△1,246	△1,819
支払利息	22,844	18,875
補助金収入	△38,857	△23,417
助成金収入	△2,206	—
有形固定資産売却損益 (△は益)	△843	△276,746
有形固定資産除却損	0	370
売上債権の増減額 (△は増加)	△380,622	△587,192
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△347,002	△71,128
前渡金の増減額 (△は増加)	201,911	△10,744
仕入債務の増減額 (△は減少)	36,695	222,631
リース前受収益の増減額 (△は減少)	253,224	—
その他	69,398	△69,913
小計	570,705	183,808
利息及び配当金の受取額	597	786
利息の支払額	△23,157	△15,957
補助金の受取額	38,857	23,417
助成金の受取額	2,206	—
法人税等の支払額	△18,738	△218,801
営業活動によるキャッシュ・フロー	570,471	△26,746
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△1,680	△1,680
有形固定資産の取得による支出	△33,146	△47,116
有形固定資産の売却による収入	243	396,932
無形固定資産の取得による支出	△9,582	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△44,165	348,135
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	250,000	△250,000
長期借入れによる収入	200,000	490,000
長期借入金の返済による支出	△638,433	△480,544
リース債務の返済による支出	△29,988	△23,434
自己株式の取得による支出	△29	—
配当金の支払額	△34,708	△69,781
財務活動によるキャッシュ・フロー	△253,159	△333,760
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	273,146	△12,371
現金及び現金同等物の期首残高	420,527	707,070
現金及び現金同等物の四半期末残高	693,674	694,698

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					
	木材事業 (千円)	ハウス・ エコ事業 (千円)	太陽光発電 売電事業 (千円)	ライフ クリエイト 事業 (千円)	不動産事業 (千円)	合計 (千円)
売上高						
外部顧客への売上高	3,964,147	1,249,495	206,069	186,823	43,220	5,649,756
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,964,147	1,249,495	206,069	186,823	43,220	5,649,756
セグメント利益	284,050	68,285	110,464	9,572	26,999	499,371

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	499,371
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△136,951
四半期損益計算書の営業利益	362,420

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第2四半期累計期間(自 2022年11月1日 至 2023年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					
	木材事業 (千円)	ハウス・ エコ事業 (千円)	太陽光発電 売電事業 (千円)	ライフ クリエイト 事業 (千円)	不動産事業 (千円)	合計 (千円)
売上高						
外部顧客への売上高	3,954,032	1,883,160	200,707	195,050	33,009	6,265,960
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,954,032	1,883,160	200,707	195,050	33,009	6,265,960
セグメント利益	311,427	66,779	115,071	917	22,168	516,364

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	516,364
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△153,958
四半期損益計算書の営業利益	362,405

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						全社・消去	合計
	木材事業	ハウス・ エコ事業	太陽光発電 売電事業	ライフ クリエイト 事業	不動産事業	計		
減損損失	—	—	—	—	72	72	—	72